

カンボジアスタディツアーで学んだこと

埼玉県立大宮工業高等学校

Yusei S.



はじめに

私はカンボジアスタディツアーに参加し、貴重な経験をさせていただきました。日本で得た情報だけでは想像できなかった現地の文化や人々の暮らしに触れ、生まれ育った場所によって生活に大きな格差があることを実感しました。安全な日本で不自由なく暮らせる日々感謝するとともに、今後は、世界中の人々が安心して暮らせる社会のために自分に何ができるかを考えていきたいです。

また、夢や目標を声に出し続けることの大切さも学びました。私は「海外に行きたい」と周りの人に伝え続けていたところ、縁あって今回のカンボジアツアーを紹介していただくことができました。自分の想いを言葉にすることで、どこでどんなチャンスが生まれるか分かりません。そのため、今回学んだことを自分の言葉で色々なところに発信し、周りの人にカンボジアの現状を知ってもらい少しでも現地の人たちの力になりたいと思います。

このニュースレターでは、ツアーの中で特に印象に残った**教育と貧困**、そして**カンボジアの歴史**について話したいと思います。



教育について

<概要>

- カンボジアの学校教育は日本と同じ **6・3・3** 制を基本としている
- 学校教室や教員不足から午前と午後で生徒をわける 2 部制を採用
- 教師の質が低い。
- 初等教育の就学率は高い（約 95%）が、中等教育の就学率は低い（約 60%）。
- 中途退学率が高い。
- カンボジアでは小学校のうちから進級テストがあり、それに合格しないと進級できない。

カンボジアでは大きな経済格差があります。貧困層の子どもたちは、「学校に通う」という日本では当たり前のことを、学用品を買えなかったり、家が貧しくて働かないといけなかったりと様々な理由でできないでいるのです。また、働かないといけない子どもたちは勉強することができなくなり、だんだん授業についていけなくなり、進級テストに受からないこともあります。そうすると家庭に負担がかかることを理由に中途退学するケースも少なくありません。このようにして、「貧しいから働く」→「勉強できない」→「中途退学」→「良い職に就けない」という負のサイクルができてしまいます。一方富裕層は学校が 2 部制であることを利用し、午前か午後は塾や家庭教師を使い勉強をしています。これが教育格差の主な原因です。学校に通えない子どもを少しでも減らすために政府や日本ユネスコ協会連盟が行っている活動の一つに寺子屋があります。実際にチュブタトラウ寺子屋に行きました。



小学校クラスの授業の様子



寺子屋の子どもたちとジェスチャーゲームを楽しんだ



寺子屋の子どもたちにダンスを披露

寺子屋は学校に通えない子や、退学してしまった子が無償で通えます。制服や文房具、通学に使う自転車などが支給されます。また月2回の給食もあります。実際に授業の様子を見させていただきました。みんな勉強に対する意欲が高かったです。授業を見ただけでなく、一緒に遊ぶことができました。私たちが用意したのは折り紙と伝言ジェスチャーゲームです。言葉は通じなかったけどすぐに打ち解けて仲良くなることができました。折り紙の手裏剣をプレゼントしたらとても喜んでくれました。カンボジアの遊びも教えてもらいました。カンボジアの伝統的なダンスや歌が混ざっている遊びでとても楽しかったです。

寺子屋の子どもたちと遊んでいるときは、とても元気で健康的だと思っていましたが、実はそうではありませんでした。彼らは体が小柄なことから小学生くらいの年齢だと思っていたのですが、中には自分達と同年くらいの子がいました。体が小柄なのは食べるものがなくて栄養が足りていなかったからでした。この話を聞いた時とても悲しい気持ちになったと共に、自分が思っている以上に深刻なんだと思いました。

カンボジアの歴史について

カンボジアでは約50年前にクメール・ルージュ時代という悲惨な時代がありました。この時代に実際に使われていた「トゥール・スレン虐殺博物館」と「キリングフィールド」というところに行きました。

トゥール・スレン虐殺博物館

ここは元々学校でしたが、人を閉じ込め拷問するために改造したところで、当時は s21 と呼ばれていました。約1万2000～2万人の人を監禁し拷問していました。この時代に多くの知識人が殺されてしまい今の教育にも影響が出ています。私は音声ガイドを借りて詳しく見てまわりました。当時使われていた拷問器具や実際の写真を見手まわるとネットではわからない、人々が経験した恐怖と苦しみを深く感じる事ができ、想像するだけで胸が締め付けられました。



拷問器具やその説明が残されている



収容された人たちの写真

キリングフィールド（チュンエク）

ここは s21 で拷問した人たちを殺すための処刑場でした。



慰霊塔



キリングツリー



キリングツリーの説明

犠牲者の遺骨が納められた慰霊塔があるのですが、塔の中には積み上げられた無数の頭蓋骨が展示されており、その光景はとても衝撃的でした。子どもも小さいうちから洗脳され人を殺すのを手伝わされていました。処刑には多くの道具が使われました。木の皮を使い人の首を切り落としていたこともあるそうです。1 番衝撃だったのはキリングツリーという木です。この木は小さな子どもを殺すのに使われていました。子どもの足を掴みあたまを木に打ち付けていたそうです。その木が当時のまま残っていました。木にはたくさんのミサンガなどがついていました。

こうした話を聞くと 1 人 1 人の命が奪われた悲劇の現場であることを実感しました。生まれる場所が違ったら自分の親がこんな目にあってしまっていたかもしれないと思うととても怖いです。トゥール・スレン虐殺博物館やキリングフィールドは決して楽しい場所ではないですが、二度とこのような悲惨なことが起きないよう歴史から学ぶためにもっと多くの人にカンボジアの暗い過去を知ってもらいたいです。

感想・まとめ

1 週間のカンボジスタディーツアーは自分にとって初めてのことで自分の世界が広がる 1 週間でした。カンボジアは悲しい歴史を超え少しずつ人々の生活が良くなるよう少しずつ前へ進んでいる国だと思いました。私は全ての人が平等で幸せな世界にしたいと思いました。そのためにも今回学んだことをたくさんの人に共有していきたいです。

またカンボジアに行けたことも、体調を崩すことなく安全に日本に帰ってこられたことも、私に関わり、支援してくださったたくさんの方のお陰です。全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。